



書評

[評者]

谷口 俊文

千葉大学医学部附属病院講師・感染制御部・感染症内科

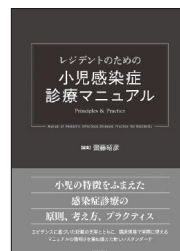
レジデントのための 小児感染症診療マニュアル

齋藤 昭彦 編

●A5 頁884 2022年3月

定価：9,900 円 (本体 9,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04294-9] 医学書院刊



一人の成人内科専門医および感染症専門医としての視点で本書を読んできた。青木眞先生の『レジデントのための感染症診療マニュアル』もそうだが、本書の最も読み応えのあるところは「総論」だ。小児と成人の感染症診療のアプローチははっきりと違う。ここでは「小児の免疫の特徴」に多くのページを使っている。これらの特徴をしっかりと把握することにより、成人とは違う病態の気づきなども得られる。また基礎的な病態生理にもかなりしっかりと触れられている。総論でここまでしっかりと網羅している感染症の本はなかなか見当たらない。それだけ小児感染症の実践で基礎的な知識が必要であるということなのだろう。

読み進めると、所々に散りばめられたメモ欄には、小児科ならではの疾患やクリニカル・パールが詰まっており、これを拾い読みするだけでも勉強になる。各論に入ると、さまざまな治療方法が感染症ごとにまとめられている。欧米で使用できる薬なども日本では使用できず、歯がゆい思いをされている先生方も、日本で小児感染症の

トップランナーたちがまとめた実践的な抗菌薬使用法は、読んでいても納得することができるのではないだろうか。

米国では基本は必須としつつも成人感染症の領域は「一般」「移植」「HIV」など細分化しており、例えば普段から固形臓器移植など免疫不全の患者の感染症に触れていないと苦手意識が出るのだが、日本の小児感染症医はオールマイティにこなさなければならない。本書を手に取りながら基礎を学ぶのは、最も効率的と思われる。「小児感染症の本」というのは英語でもなかなか良書に出合うのが難しいが、日本語でこれだけの臨床的に実践的な内容が詰め込まれている本があるということ自体、素晴らしいのと同時に世界的にもひけをとらない小児感染症領域のレベルを築き上げるのにも役立つだろう。また私が青木先生の本を手に取り感染症医を志したのと同じように、本書を手に取り小児感染症医を志す医学生や研修医も必ず出てくると思う。レジェンドが描く、将来の日本小児感染症の世界が楽しみだ。